

令和4年度

岩手県立総合教育センターの事業の概要



<目 次>

	(ページ)
I 研修事業について	1 ~ 4
II 支援事業について	5 ~ 8
III 研究事業について	9 ~ 11

令和5年2月16日(木)

岩手県立総合教育センター

I 研修事業について

(1) 実施状況（基本研修の初任者研修は全て集合研修で実施）

新型コロナウイルス感染予防対策の徹底を図り、集合型の研修を実施することができた。また、研修成果を高めるため、また遠方からの研修者への配慮として事前オンデマンド視聴を組み合わせた研修講座を多数実施した。

	集合	ライブ	全て	集合+ライブ	オンデ+ライブ	集合+オンデ
基本研修(中堅研を除く)	17	0	0	0	0	12
特別研修	18	2	0	2	0	4
希望研修	22	0	3	9	1	21

(2) 研修講座の状況及び研修成果の評価について

研修講座アンケートの集計結果（令和4年4～12月実施分）

研修講座の種類	研修者数	定員	A		B		C		D	
初任研	820	1050	739	90.1%	82	10.0%	1	0.1%		
教職経験者	800	874	719	89.9%	78	9.8%	2	0.3%		
中堅研	332	450	310	93.4%	17	5.1%				
①基本研修合計	1952	2374	1768	90.6%	177	9.1%	3	0.2%		
新任研修	488	525	420	86.1%	65	13.3%	1	0.2%		
教職専門等研修	595	690	521	87.6%	73	12.3%	1	0.2%		
②特別研修合計	1083	1215	941	86.9%	138	12.7%	2	0.2%		
教科研修	227	749	215	94.7%	12	5.3%				
領域等研修	17	38	17	100.0%						
情報教育研修	44	131	35	79.5%	8	18.2%	1	2.3%		
教育相談研修	201	300	191	95.0%	12	6.0%	1	0.5%		
特別支援教育研修	216	265	191	88.4%	22	10.2%	1	0.5%		
幼児教育研修	116	265	101	87.1%	15	12.9%				
③希望研修小計(公開除く)	821	1748	750	91.4%	69	8.4%	3	0.4%		
④公開研修小計	38	225	37	97.4%	1	2.6%				
⑤希望研修合計(③+④)	859	1973	787	91.6%	70	8.1%	3	0.3%		
⑥派遣研修(長期研修)										
合計(①+②+⑤+⑥)	3894	5562	3496	89.8%	385	9.9%	8	0.2%		

<研修内容に対する評価>

各研修内容は、皆さんにとって下記の「ねらい」を達成する上で適切な内容でしたか。

A: そう思う B: どちらかと言えばそう思う C: どちらかと言えばそう思わない D: そう思わない

※幼児教育研修（全6講座）は、令和4年度から特別研修に改編している。

(3) 評価結果 ※R4年度は4～12月実施分、R3・4の（ ）はICT活用研修。

年度	評価			
	A	B	C	D
R4	89.8%(89.2%)	9.9%(10.3%)	0.2%(0.3%)	0%
R3	86.4%(88.2%)	13.5%(11.6%)	0.2%(0.2%)	0%
R2	87.3%	12.5%	0.2%	0%
R1	88.7%	11.1%	0.2%	0%
H30	88.8%	10.8%	0.3%	0%

(4) 結果から

(3)の評価結果について、A評価数値が高くなった理由は、A評価の数値が低い昨年度まで実施していた授業力向上研修（R3年度は研修者数1,941名、A評価81.6%）が無くなり、R4年度は中堅研（研修者数332名、A評価93.4%）として実施した分の影響が大きい。

R4年度は、多くの研修講座でオンデマンド型の研修を実施し高い評価を得たが、勤務時間内でのオンデマンド動画の視聴ができなかったとのアンケート結果も見られた。課題を基に検討し、R5年度の実施形態を改訂している研修講座がある。今後も、各研修講座の特性を生かした実施形態等で企画運営を行い、教員研修計画及び本県の教育動向に基づき内容を精査しながら研修の充実に努める。

総合教育センター要請研修(令和4年4月～令和4年12月)

1 校種別月別研修者数

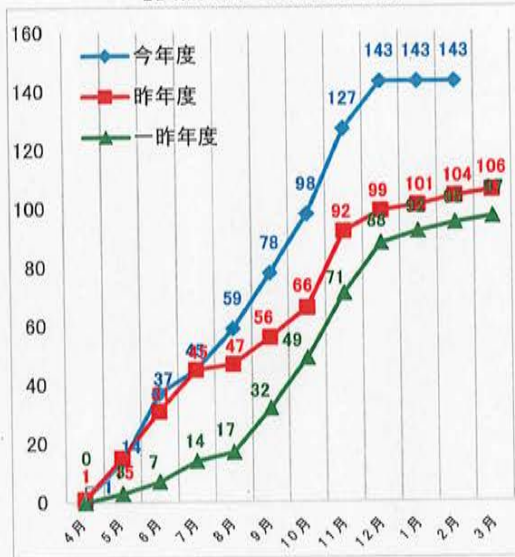
校種	月												合計	昨年度 12月まで	一昨年度 12月まで	昨年度 年間合計	一昨年度 年間合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
幼稚園・保育園	0	0	38	0	0	11	0	0	0				49	0	0	95	312
小学校	0	47	73	77	45	35	116	265	44				702	5	47	459	915
中学校	0	85	320	30	6	137	91	168	14				851	26	90	452	230
高等学校	40	51	351	11	52	85	47	83	35				755	41	71	638	667
特別支援学校	0	0	9	0	0	107	40	35	210				401	0	30	128	109
その他	12	0	182	11	68	174	430	116	98				1,091	24	735	492	2,115
合計	52	183	973	129	171	549	724	667	401	0	0	0	3,849	96	973	2,264	4,348
R3年度	50	180	319	406	2	133	337	658	96	27	44	12	2,264				
R2年度	0	140	103	345	202	476	1,083	694	973	80	121	131	4,348				

昨年度 12月までの累計 2,181

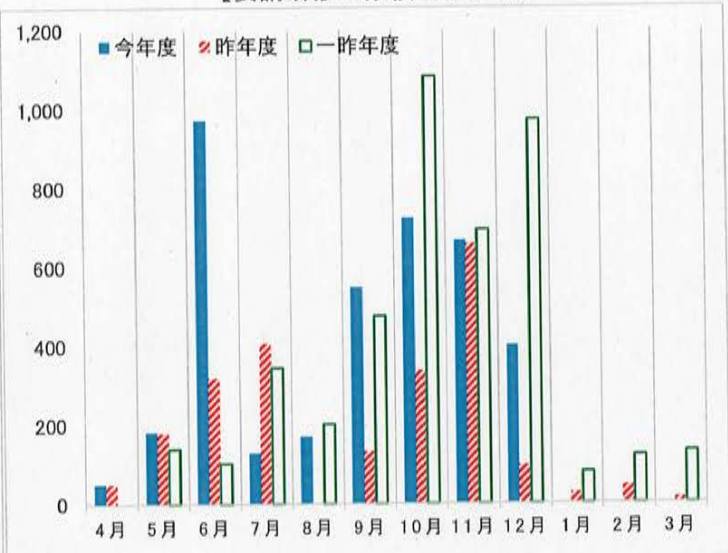
一昨年度 12月までの累計 4,016

※教員研修者数の合計は 2,758 名

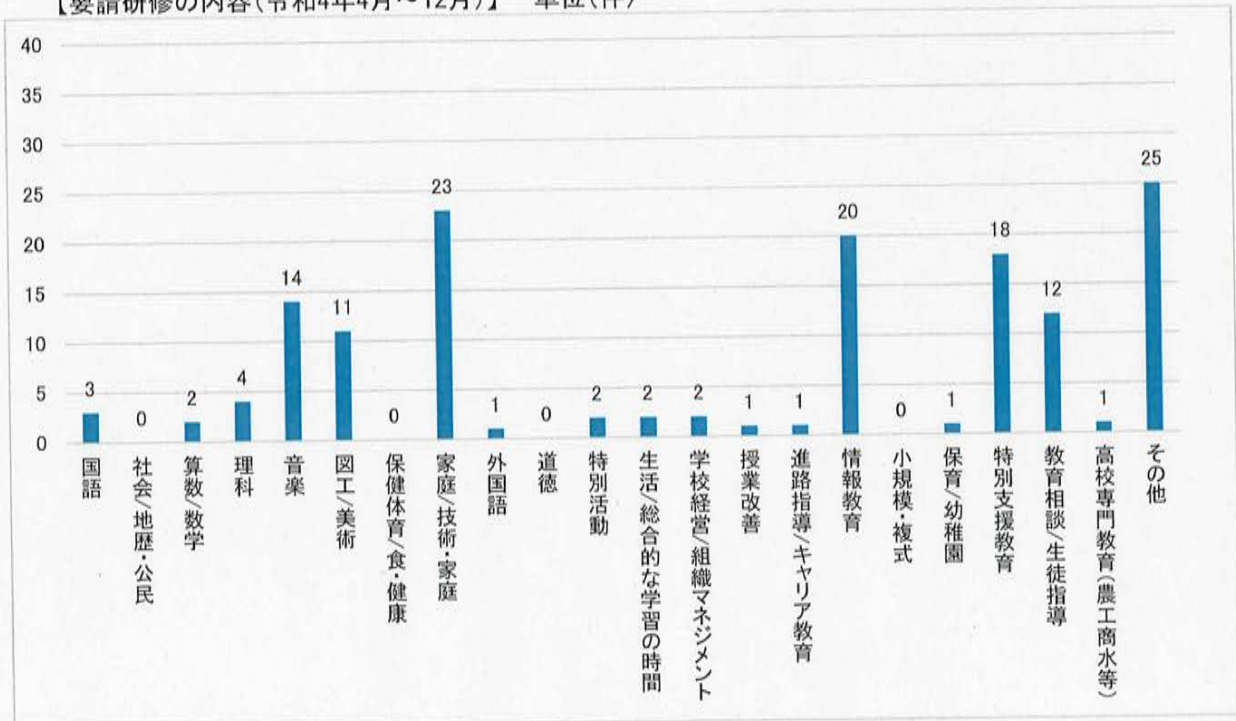
【要請研修の累積件数】



【要請研修の累積研修者数】



【要請研修の内容(令和4年4月～12月)】 単位(件)



総合教育センター随時研修(令和4年4月～令和4年12月)

1 校種別月別研修者数

校種	月												合計	昨年度 12月まで	一昨年度 12月まで	昨年度 年間合計	一昨年度 年間合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
幼稚園・保育園	0	0	0	2	6	0	0	0	1				9	0	0	15	15
小学校	5	0	9	0	24	1	8	6	2				55	5	10	77	72
中学校	4	0	6	0	4	13	3	0	0				30	1	4	54	34
高等学校	0	0	0	0	1	0	1	24	3				29	13	8	44	35
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	6	0				6	1	0	3	28
その他	1	0	9	0	3	0	1	0	0				14	20	29	34	77
合計	10	0	24	2	38	14	19	30	6	0	0	0	143	40	51	227	261
R3年度	19	22	17	22	15	12	40	10	40	5	24	1	227				
R2年度	4	11	22	8	52	25	28	10	51	30	19	1	261				

昨年度 12月までの累計 197

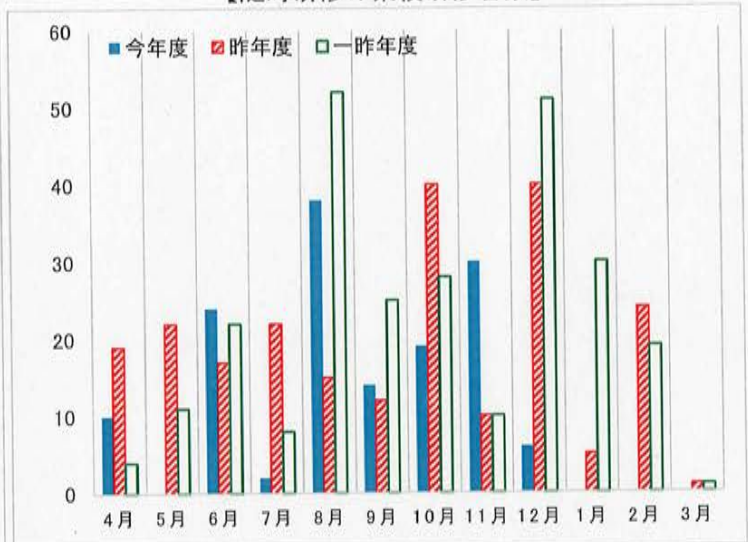
一昨年度 12月までの累計 211

※教員研修者数の合計は 129 名

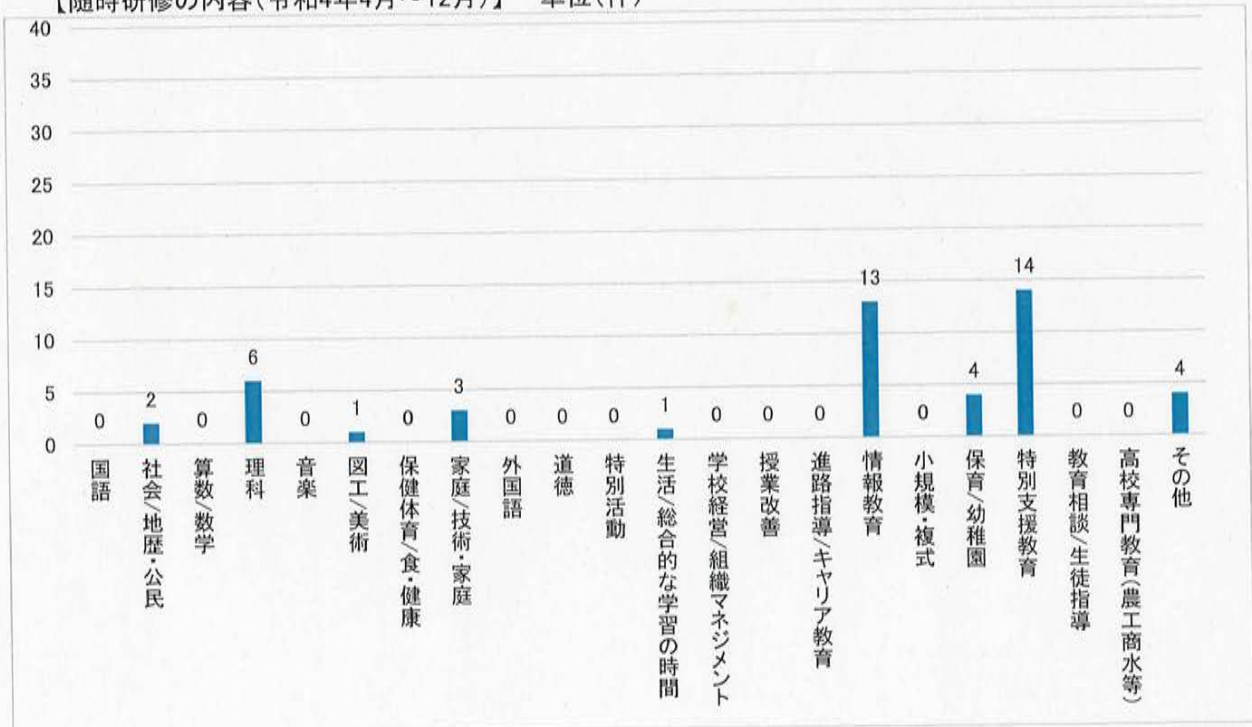
【随時研修の累積件数】



【随時研修の累積研修者数】



【随時研修の内容(令和4年4月～12月)】 単位(件)



総合教育センター移動センター(令和4年4月～令和4年12月)

1 校種別月別研修者数

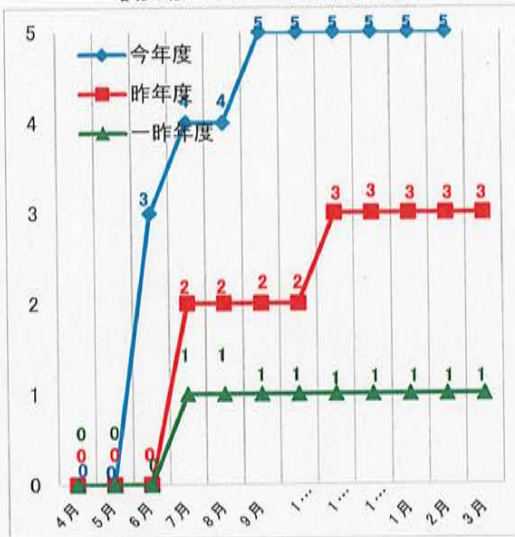
校種	月												合計	昨年度 12月まで	一昨年度 12月まで	昨年度 年間合計	一昨年度 年間合計		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3							
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小学校	0	0	62	10	0	8	0	0	0								80	34	15
中学校	0	0	29	3	0	3	0	0	0								35	8	1
高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0	0
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0								0	0	0
その他	0	0	14	3	0	0	0	0	0								17	0	0
合計	0	0	105	16	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	132	42	16
R3年度	0	0	0	30	0	0	0	12	0	0	0	0					42		
R2年度	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0					16		

昨年度 12月までの累計 42

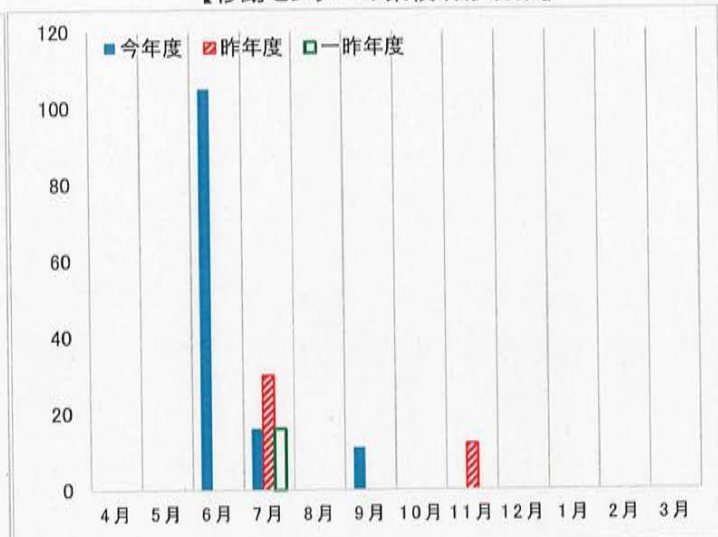
一昨年度 12月までの累計 16

※教員研修者数の合計は 115 名

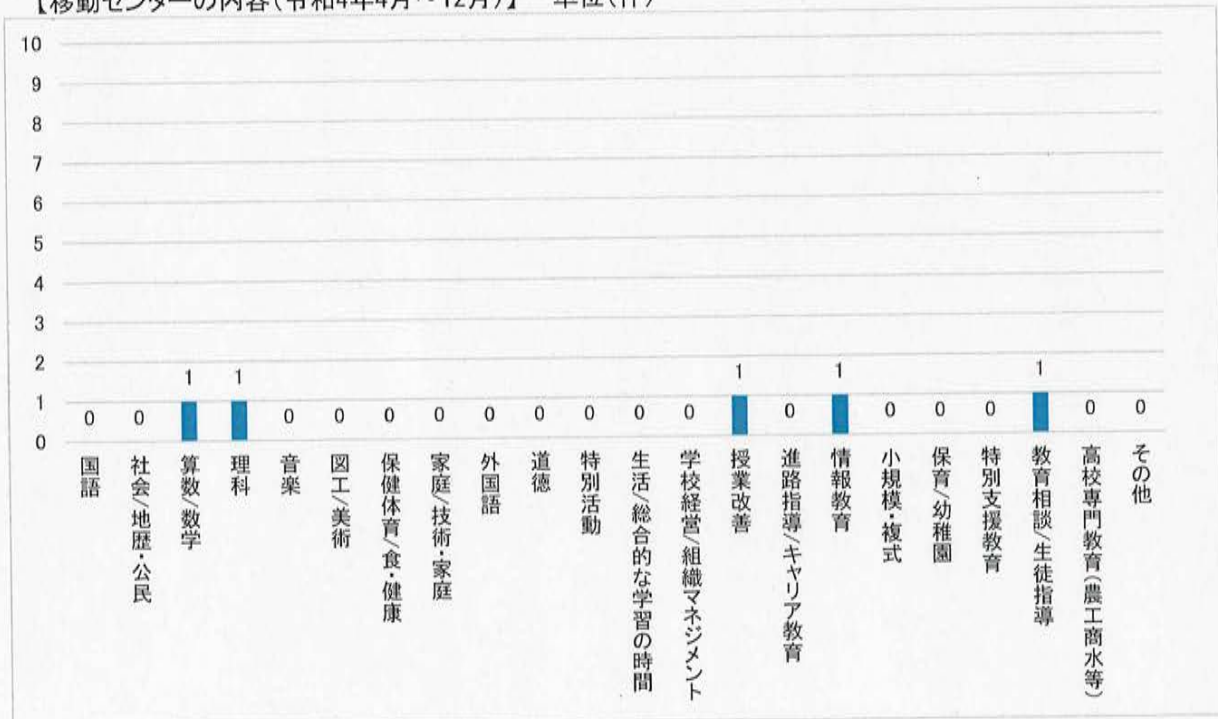
【移動センターの累積件数】



【移動センターの累積研修者数】



【移動センターの内容(令和4年4月～12月)】 単位(件)



II 支援事業について

1 教育相談事業

(1) 相談内容別相談件数（令和5年1月末現在）

（単位：件）

相談内容	R 4		R 3		R 2		R 1	
	年間	1月末まで	年間	1月末まで	年間	1月末まで	年間	1月末まで
不登校		(298)	225	(205)	504	(447)	440	(347)
いじめ		(11)	37	(35)	14	(12)	25	(22)
非行		(0)	7	(7)	21	(19)	8	(5)
生徒指導一般		(458)	721	(635)	666	(562)	642	(562)
進路		(15)	24	(19)	19	(15)	54	(47)
学業		(103)	281	(253)	256	(209)	265	(220)
家庭生活		(23)	40	(36)	68	(62)	59	(51)
その他		(254)	299	(251)	264	(220)	235	(217)
計		(1,162)	1,634	(1,441)	1,812	(1,546)	1,728	(1,471)

- ・複数の相談内容がある場合は、主たる内容を計上していること。
- ・相談総数は、令和5年1月末時点で1,162件であり、前年同時期比で279件の減少となっている。
- ・様々な要因が内包した難しい相談ケースもある。

(2) 相談形態別相談件数（令和5年1月末現在）

（単位：件）

形態	R 4		R 3		R 2		R 1	
	年間	1月末まで	年間	1月末まで	年間	1月末まで	年間	1月末まで
電話		(860)	1,248	(1,092)	1,266	(1,095)	1,162	(1,015)
来所		(224)	308	(271)	441	(360)	484	(382)
訪問		(78)	78	(78)	105	(91)	82	(74)
計		(1,162)	1,634	(1,441)	1,812	(1,546)	1,728	(1,471)

- ・形態別相談件数では、電話相談が約860件と最も多い。コロナ感染拡大に伴い、来所相談を制限した期間があった。
- ・最初に、電話相談を受け、内容や状況に応じて、来所相談や訪問相談を実施するケースがある。

(3) 校種別相談件数（令和5年1月末現在）

（単位：件）

校種	R 4		R 3		R 2		R 1	
	年間	1月末まで	年間	1月末まで	年間	1月末まで	年間	1月末まで
小学生		(278)	561	(490)	718	(599)	619	(502)
中学生		(359)	424	(381)	560	(471)	518	(435)
高校生		(424)	532	(477)	434	(387)	551	(495)
その他		(101)	117	(93)	100	(89)	40	(39)
計		(1,162)	1,634	(1,441)	1,812	(1,546)	1,728	(1,471)

- ・その他は、未就学、短大・大学・専門学校、社会人であること。
- ・校種別相談件数は、高等学校が最も多く、次いで、中学校、小学校の順となっている。

(4) 教育支援相談業務の成果と課題

- ・近年の相談としては、学校のみならず、医療機関からの紹介で相談につながるケースも多くなっており、相談内容に応じて、他機関と必要な連携を図っていくことが求められている。
- ・沿岸地区の教育相談機能の充実に資する目的から、沿岸地区高等学校（高田、釜石、宮古、久慈）を拠点として、「沿岸地区相談室」を実施している。継続的支援を要する相談ケースや、学級経営や生徒指導に苦慮する教員へのコンサルテーションにより、効果的な対応ができています。また、教育相談担当スーパーバイザーとして同行していただいた駒澤大学の八巻秀教授から、各地区及び各ケースの支援についての助言をいただき、相談を担当する所員のスキルアップにも繋がった。
- ・長期研修（教育相談コーディネーター養成研修）を終えた現職教員が66名（小23 中22 高13 特8）となり、多くの修了生が各所属校での教育相談等に尽力をしている。修了生に対してはフォローアップの研修講座を実施するほか、当センターで事例発表を行うことにより、ブラッシュアップの場も設けている。また、学校教育室生徒指導担当の取組として、修了生の希望者が「学校教育相談エリア相談員」として委嘱されており、地域での活躍がより一層期待されている。

2 いじめ問題に対応した教育相談機能の充実について

(1) 教育センターにおけるいじめに関する相談の現状（令和4年1月末現在）

いじめに関する教育相談件数を見ると、令和2年度は14件、令和3年度は37件であった。令和4年度は1月末現在で11件と、前年度同期件数に比較し減少している。

ケースの中には、いじめにより学校に行けなくなっている重大事態に該当すると考えられるものがあり、学校への継続的な支援が必要なものも含まれる。今後、関係機関との情報共有及び連携の下、各ケースへ適切に対応していくことが求められている。

(2) いじめ問題に関する研修講座の見直し

本県の喫緊の課題であるいじめ問題に関し、以前は希望研修として実施していた3講座を平成30年度から、管理職対象と担任層対象の2つの特別研修として実施している。管理職対象研修講座では、法を踏まえた対応と重大事態への対応における組織としての対応力向上に重点を置き、担任層対象研修講座では、法の理解とともに学級集団づくりの在り方に重点をおいた研修内容としており、校内での役割に応じた実践力の向上を図っている。

【令和5年度いじめ関連研修講座】

期 日	研修講座名	対象者	対象校(予定)
5月24日(水) ～25日(木)	いじめ問題への理解と対応 研修講座（管理職、主任層 対象・いじめ関連講座①）	管理職・主任層	小 54 中 27 高 13 特 2
5月16日(火) ～17日(水)	いじめを予防する学級集団 作り研修講座（学級担任層 対象・いじめ関連講座②）	学級担任層(教諭)	小 54 中 27 高 12 特 2

- ・平成30年度から6年間で県内全校種、全校が受講完了の予定であったが、令和2年度は、新型コロナウイルスによる非常事態宣言期間と重なり、感染防止のため令和3年度に延期となった。予定期間を1年延長し、県内すべての学校が受講完了するまで継続する（令和6年度完了予定）。

3 教育情報・資料提供等について

(1) 主な刊行物

次の刊行物を編集し、県内外の関係機関に配付、周知

ア 『教育研究岩手』 第110号

- ・「新しい時代に必要な資質・能力の確実な育成を目指してーICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現ー」を特集テーマに、優れた実践研究等を収録、12月に発行

イ Webによる研究資料公開

- ・更新した教育センターWebに旧Webページの研究関連の資料をまとめ・整理し、新たなページとして掲載

(2) インターネットやデータベース等による情報提供

ア Webによる情報発信 (<http://www1.iwate-ed.jp/>)

- ・令和4年11月28日から新サイト移行(図1)
- ・今年度、新着情報は29回の更新(2月1日現在)
- ・研修や研究に関する情報、開発教材・マニュアル・手引きの提供等

イ Facebookによる情報発信(図2)

- ・令和2年度から開始。今年度は37回の掲載(2月1日現在)
- ・実施した研修の様子や研修予定などについて迅速な情報提供

ウ 電子メールによる情報発信

- ・メールマガジン「教育センターニュース」7回配信済

エ データベースによる情報発信

- ・県内の学校公開研究会実施校の学習指導案を収集してWebで公開

オ 情報モラル教育にかかる支援

- ・学校からの要請に研修指導主事が対応し、総合教育センターの開発した情報モラル教材や学習指導案等を活用した授業支援の実施
- ・教育センターが開発した情報モラル教材貸し出し(スマホの実機を使用した教材)。(今年度4回)

カ ICT活用支援

- ・GIGAスクール構想に伴い、各学校に導入されたタブレット端末の活用について、学校を訪問または教育センターで研修(参集やオンライン)を実施



図1 教育センターWeb



図2 教育センターfacebook

- ・Microsoft Teams を活用したオンライン授業やファイル共有、Microsoft Forms や Google Forms を活用したアンケート集計等を活用した授業支援

キ プログラミング教育支援

- ・小学校、中学校、高等学校のプログラミング教育についての要請研修、随時研修の実施
- ・センターが所有するプログラミング用教材の研修と貸し出し（今年度小学校7回、中学校3回、高等学校10回）

ク 学習支援（Gアップシート、Gベース学習サイト） [\(https://www1.iwate-school.jp/\)](https://www1.iwate-school.jp/) (図3)

- ・県教育委員会事務局と総合教育センターで作成した「Gアップシート」（中学校国語・数学・英語の学習シート）をインターネット上で学習できる教材として平成20年11月から提供
- ・これまでのnetcommons2.0のセキュリティサポート終了に伴い、令和5年3月から、「Connect-CMS」システムに移行して継続

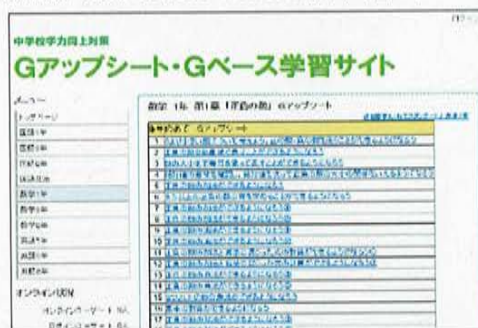


図3 Gアップシート、Gベース

ケ 情報共有サイト（岩手教育情報交流ネット） [\(https://www2.iwate-school.jp/\)](https://www2.iwate-school.jp/) (図4)

- ・研修講座申込受付や研修講座実施要項、学校公開等の情報発信に利用
- ・県教育委員会や各学校、各教育研究会から小中高特別支援学校への情報提供にも利用。各教育委員会間、各学校間、教育委員会と学校間でのデータ共有が可能
- ・IDとパスワードを学校単位で発行
- ・平成21年度から運用開始。これまでのnetcommons2.0のセキュリティサポート終了に伴い、令和5年3月から、「Connect-CMS」システムに移行して継続



図4 岩手教育情報交流ネット

(3) センター一般公開 (図5)

- ・「いわて教育の日（11月1日）」の関連事業として位置付けるものであり、当センターを活用した学習及び体験の機会を提供するとともに、当センターについて広く周知すること等を目的としている
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は参加者を事前申し込み制とし11月3日（月）に実施
- ・当日参加者数 児童65名、保護者64名（推定）



図5 一般公開の様子

Ⅲ 研究事業について

1 所員の研究主題

- (1) 【総論】ICTを活用した学習活動の充実に関する研究【2年研究】(2年次)
—教員のICT活用指導力の充実に資する実践事例集の作成を通して—
 - (1-1) 小学校 第6学年 社会科 幕府の政治と人々の暮らし
「我が国の歴史上の事象について、課題を追究したり解決したりする活動の充実に関する実践」
 - (1-2) 高等学校 地理歴史科 歴史総合
「現代的な諸課題につながる近代化の歴史的事象への多面的・多角的考察の充実に関する実践」
 - (1-3) 中学校 第2学年 理科[第2分野] (4) 気象とその変化
『気象とその変化』について、気象観測データを基に、分析・解釈する学習の充実に関する実践」
 - (1-4) 中学校 第3学年 理科[第1分野] (6) 化学変化とイオン
「電極における変化を、イオンのモデルと関連付けて微視的に捉える学習の充実に関する実践」
 - (1-5) 高等学校 理科 化学基礎 (3) 物質の変化とその利用 (ア) 物質と化学反応式
「データの分析・解釈における考察・推論の充実に関する実践」
 - (1-6) 高等学校 家庭科 家庭基礎 B衣食住の生活の自立と設計 (3) 住生活と住環境
「ライフステージに応じた住居の機能性に配慮した学習の充実に関する実践」
 - (1-7) 高等学校 工業科 工業情報数理 (3) プログラミングと工業に関する事象の数理処理
ウ 数理処理
「事象をモデル化してシミュレーションする数理処理の学習の充実に関する実践」
 - (1-8) 小学校 知的障がい特別支援学級 国語科 算数科
「知的障がいのある児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践」
 - (1-9) 小学校 LD等通級指導教室通級児童 自立活動 4環境の把握等
「自分の感覚や認知の特性について理解し、自分の得意な方法で読むことの困難を改善することに関する実践」

2 長期研究生の研究主題

- (1) 中学校外国語科における領域統合型の言語活動の充実に関する研究
—領域と領域をつなぐツールとして、ICTを活用することを通して—
- (2) 中学校特別支援学級における将来の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究
—キャリア発達に応じた授業実践資料の活用を通して—
- (3) 特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究
—自立活動指導資料(肢体不自由)の作成を通して—

3 令和4年度の研究成果普及のための取組について

- (1) Web ページ・メールマガジン等を活用した研究成果の発信
- (2) 研究リーフレットの作成・配布、概要版等研究成果物の見本展示
- (3) 研修講座での積極的活用
- (4) 要請研修・随時研修・移動センターでの活用
- (5) 外部機関・発表会等における研究成果の発信
- (6) 教育事務所や市町村教育委員会の指導主事と連携した普及
- (7) 提案授業の実施
 - ① 中学校技術・家庭科 [家庭分野] [紫波第二中学校 7/12]
 - ② 特別支援学校(小学部) 図画工作科
[前沢明峰支援学校 8/8 ※映像を使用、会場は教育センター]
 - ③ 小学校理科 [山王小学校 11/9 ※映像を使用、会場は教育センター]
 - ④ 中学校国語 [湯口中学校 11/15 ※映像を使用、会場は教育センター]



(8) 岩手県教育研究発表会

期日及び実施形態

令和5年2月9日(木) 全体会【集合型及びライブ型】

令和5年2月10日(金) 分科会【集合型及びライブ型】

令和5年2月17日(金) から3月2日(木) 動画配信【オンデマンド型】

【分科会毎の発表本数・参加者数等の推移】

分科会名	発表本数・分科会の内容構成		参加者数(単位:人)					
	令和4年度		R4年度			R3年度	R2年度	備考
	発表	分科会の内容構成	集合型	ライブ型	オンデマンド型			
全体会(講演会)	0(0)	講演	243	84	120	242	487	
全体会(いわて学びの改革プロジェクト研究発表)	8(0)	総論説明、発表、講評	240	60	152		—	
特設1-学力向上	5(0)	発表、提言	40	8	78	584	161	
特設2-カリキュラム・マネジメント	1(0)	発表、パネルディスカッション、助言、講演	47	20	64		107	R2開設
特設3-生徒指導	3(0)	発表、助言、講演	29	2	47		—	R4開設
01 国語	4(0)	発表、助言	31	9	36		59	
02 社会/地理歴史・公民	3(2)	発表、助言	16	3	44		46	
03 算数/数学	10(0)	発表、助言	74	17	105		141	
04 理科	4(3)	発表、助言	16	5	32		42	
05 音楽	2(0)	発表、助言、伝講	8	4	14		22	
06 図画工作/美術	3(0)	発表、助言	15	2	22		17	
07 家庭/技術・家庭	2(1)	発表、助言	8	0	12		36	R2技術総合 R3商業総合
08 体育/保健体育	3(0)	発表、助言	28	11	23		23	
09 外国語活動/外国語	3(1)	発表、助言、講演	40	9	49		104	
10 総合的な学習(探究)の時間/生活科	2(0)	発表、助言、パネルディスカッション	18	3	29		34	R2キャリアと総合
11 特別の教科 道徳	2(0)	発表、助言、講演、シンポジウム	56	—	—		64	
12 情報教育/工業	4(1)	発表、助言	25	2	28		—	R2総合と総合
13 キャリア教育	2(0)	発表、助言	21	3	29		—	R2総合と総合
14 学校マネジメント	3(0)	発表	26	5	26		—	
15 幼児教育/幼小接続	4(0)	発表、助言	16	7	33		73	
16 教育相談	8(4)	発表、講演	35	—	—	60		
17 特別支援教育	5(4)	発表、助言	47	—	—	138		
18 いわての復興教育「いきる・かかわる・そなえる」	5(0)	発表、講演	42	5	44	124	本庁主催	
合計	86 (16)		1121	259	987	826	1973	

※R3年度はオンライン開催となり、どの分科会も視聴可能のため総数のみ表示。

※発表欄の()内の数は、研修指導主事及び長期研修生の研究等の本数である。

※「11 特別の教科 道徳」「16 教育相談」「17 特別支援教育」の各分科会は、集合型のみの開催とし、ライブ型及びオンデマンド型の配信は行わない。

4 研究の内部(所内)評価と外部(所外)評価の取組について

(1) 内部評価の取組について

ア 所内研究検討会：5月・9月・12月・1月に実施

イ 評価フォーム：各研究主題について所員・長期研修生がコメントを記入し、その後の研究に反映させている。

ウ 担当室内における検討会：担当室毎に室検討会を実施し、改善を図っている。

(2) 外部評価の取組について

ア 岩手県教育研究発表会において、当センターの研究発表に対する評価を、参加者からアンケート方式で収集して、次年度の研究発表会に生かしている。

イ 「総合教育センターの研修・支援・研究業務の推進に関する調査(全県調査)」を隔年で実施している。この調査から、研究成果物の活用状況や当センターが取り組む研究に対するニーズ等を確認し、業務に反映させている。令和4年度は、2～3月に調査を実施する。

5 令和5年度の研究について

(1) 令和5年度研究として、所員による研究3本と長期研修生による研究2本を予定している。

(2) 研究主題名と担当室

ア 所員による研究(3本)

No	研究主題名(令和5年2月1日現在)	担当室
1	【中学校数学科】 統計的に問題解決する力を育成する授業の在り方に関する研究 —中学校第2学年「四分位範囲」、「箱ひげ図」の指導を通して—	教科領域教育
2	【小学校理科】 児童が自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する授業の在り方に関する研究 —問題解決の活動の充実を通して—	理科教育
3	【小学校家庭科】 小学校家庭科における消費者教育の充実に関する研究 —学習と日常生活を結び付ける指導計画の作成を通して—	情報・産業教育

イ 長期研修生による研究(2本)

No	研究主題名(令和5年2月1日現在)	担当室
1	【高等学校国語科】 高等学校国語科「言語文化」古典における自分の考えを形成する読みの指導に関する研究 —複数テキストによる単元構想と言語活動の充実を通して—	教科領域教育
2	【特別支援学校 自立活動 病弱】 特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究 —自立活動指導資料(病弱・身体虚弱)の作成を通して—	教育支援相談